学科等における教員養成に対する理念・目標・教育課程

学部・学科	外国語学部ドイツ学科
校種（免許教科）	中学校教諭一種免許（ドイツ語）　高等学校教諭一種免許（ドイツ語）

（１） 学科の理念

ドイツ学科では、「人間の尊厳のために」という教育モットーのもと、ドイツ語教育とドイツ語圏地域研究の２つを軸とするカリキュラムを編成し、以下の知識と能力を身につけた人材を育成する。

- ドイツ語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度なドイツ語運用能力
- ドイツ文化専攻では、言語、文学、芸術などを中心としたドイツ圏の文化に関する深い学識と教養、および異文化間の対話と相互理解を促進する、優れたコミュニケーション能力
- ドイツ社会専攻では、政治、経済、歴史などを中心とした、社会の事象を社会科学の視座に立って構造的に把握し、現代社会が抱える問題、課題を積極的に発見し解決しようとする複眼的な思考力、判断力、行動力

（２） 教員養成の目標・計画

南山大学外国語学部ドイツ学科では、ドイツ語の運用能力の育成を基礎とした上で、ドイツ語圏の言語・文化・芸術・歴史に関する研究と、社会科学的アプローチに基づく地域研究・国際関係研究を学科における専門教育の重点としている。このように、ドイツ語圏の言語・文化・歴史のみならず、地域研究や国際関係の研究が学科のカリキュラム編成において中心的な柱となっている理由は、言語や歴史を通じた文化理解を社会科学的な地域研究によって深化させることで、またEUやヨーロッパの文脈を背景としたドイツ語圏地域研究を言語・歴史的な関心に支えられた文化研究と結合することで、より学際的で多角的な研究・教育の地平が拓かれると考えるからである。

本学科でドイツ語圏の言語・文化・芸術・歴史、ならびに社会科学的な地域研究に関する教育を受け、その分野を学び卒業する学生は、ドイツ語圏を含むヨーロッパ地域の文化的・社会的背景に深い関心と造詣をもち、総合的・多角的な視野をもって地域社会を理解することのできる人物である。本学科の卒業生が中学校や高等学校のドイツ語教育職員免許を得て教職に就くことは、国際社会で活躍する人材、あるいは今後ますます異文化交流が活発になってゆく日本社会の牽引役となる人材を育成するうえで、大きな社会的貢献をなすものと考えられる。

南山大学が位置する東海地方では、国際交流の推進に重点を置きながら、多文化共生社会の実現に向けてさまざまな取り組みがなされている。そうした社会を形成するために必要な多文化共生に関する意識を高め、国際交流・異文化理解に重きを置いた学校教育を充実させることは、この地域の大学に課せられた重要な任務の一つである。とくに、日本語・英語に並ぶ第三の言語としてドイツ語を習得し、その高度な運用能力とともにドイツ語圏の文化・社会に関する豊かな学識を備えた教員を輩出することは、地域社会の成熟的発展にとって必要不可欠であり、ここに南山大学外国語学部ドイツ学科においてドイツ語科教育職員を養成する社会的意義があると考えられる。

グローバル化・多文化化が進展する現代にあって、複言語を用いたコミュニケーション能力は職業生活でもプライベートな生活でも生涯にわたり必要とされる。外国語科では、「知識及び技能 」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を明

確にしつつ、各学校段階の学びを接続させるとともに、外国語を使ってできるようになることを明確にすることが求められる。ドイツ語の教員には、高度で実用的なドイツ語運用能力と同時に、言語や文化の異なる人々を理解し、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて自ら判断できるよう、生涯にわたって学び続ける力を持つことが求められる。ドイツ学科では、多様な人々とコミュニケーションを図りつつ、他者を尊重する多文化共生社会の実現に向けて主体的・対話的に行動できる教員の育成を目指している。

上述した教員養成の目標を実現するために、ドイツ学科では、共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置する。

共通教育科目では、大学のディプロマ・ポリシーに掲げる能力、すなわち、

- 人種、障がい、宗教、文化、性別など様々な違いを認識し、受容するための基礎となる教養
- 多様性を前提とした人間の尊厳、他者の尊厳を尊重する力
- 多様な人々との共生、協働を可能にするコミュニケーション能力
- 世界における様々な問題を解決するために必要な専門知識や総合的判断力、ならびに、解決に寄与する新たな価値を創造する力
- 地球規模と地域の双方の視点に立って、先入観にとらわれることなく人々と交流することのできる国際性

を養成する。

外国語学部共通科目では、学部のディプロマ・ポリシーに掲げる能力、すなわち、

- 専門とする外国語（ドイツ語）で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な外国語（ドイツ語）運用能力
- 専門とする地域についての多分野（言語、文化、歴史、政治、社会など）にわたる知識をもとにした問題解決能力
- グローバルな視野に基づく柔軟な異文化理解能力と、物事を多面的かつ緻密に分析できる洞察力

を養成する。

ドイツ学科の学科科目では、基礎教育として、文献検索の方法、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート・論文作成の技法、コンピュータの活用能力といったアカデミック・スキルの基礎を習得するための科目を配置する。同時に、ドイツ語の高度で総合的な運用能力を育成するための科目を配置する。ドイツ語運用能力の到達度の確認にあたっては、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」（欧州言語能力共通基準）に準拠する。2年次には、ドイツ語運用能力の向上と、異文化環境における適応力、行動力の涵養を図るために、海外フィールドワークを配置する。3・4年次には、ドイツ語の運用能力をさらに高めると同時に、ドイツ語圏の文化や社会に関する知識を深めるための科目を配置する。必修の演習科目では、学問的方法を学ぶとともに、自らが設定したテーマに関する研究成果を卒業論文としてまとめる。

ドイツ文化専攻では、個別の言語表現や芸術作品に内包される文化的特質、差異を認識する高度なリテラシーと、深い想像力をもって他者と接する、異文化コミュニケーションに開かれた態度を育成するための科目を配置する。

ドイツ社会専攻では、情報を収集、整理、分析し、問題発見、課題解決へとつなげる能力、市民として政治や経済など社会の動きを観察し、それに積極的に関与する行動力、批判的思考力を育成するための科目を配置する。

カリキュラム全体を通してアクティブ・ラーニング（能動的学習）を取り入れ、学生の主体的な学びを積極的に評価する。各科目の学修成果は、講義概要に示された到達目標の達成度に応じ

て評価する。

（３） 授業科目・教育課程の編成実施（校種・免許教科別に記載）

（ア） 中学校教諭一種免許（ドイツ語）

ドイツ学科では、免許法施行規則に定める科目区分に基づき、「ドイツ語学」、「ドイツ文学」、「ドイツ語コミュニケーション」、「異文化理解」の四つの領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。

「ドイツ語学」では、必修科目として「ドイツ語学研究」を、選択科目として「中級講読Ａ」「中級講読Ｂ」「文献講読（ドイツ語圏の文化）」「文献講読（ドイツ語圏の社会）」を配置する。

「ドイツ文学」では、必修科目として「ドイツ文学史」を、選択科目として「ドイツ文学研究」「ドイツ語演劇研究」を配置する。

「ドイツ語コミュニケーション」では、必修科目として「初級ドイツ語Ⅰ」「初級ドイツ語Ⅱ」「中級ドイツ語Ⅰ」「中級ドイツ語Ⅱ」を、選択科目として「上級ドイツ語会話Ⅰ」「上級ドイツ語会話Ⅱ」「上級ドイツ語作文Ⅰ」「上級ドイツ語作文Ⅱ」を配置する。

「異文化理解」では、必修科目として「ドイツ語圏異文化コミュニケーション論」を、選択科目として「ドイツ研究の基礎（言語・文化）」を配置する。

また、教科指導法科目として、「ドイツ語科指導法Ａ」「同Ｂ」「同Ｃ」「同Ｄ」を配置する 。中学校では４科目８単位以上を必修とする。この科目では、ドイツ語教育に関する知識・技能を学ぶとともに、ICTの活用技術、及びアクティブラーニングの視点から授業改善できる実践的な指導力を身に付ける。その到達目標は以下の通りである。

- 科学知と経験知、理論と実践の両方を見据えつつ、独力でドイツ語授業を立案・実施・反省できる自律的な能力を身につけている。
- 外国語教育の実践者として必要な関連諸科学（言語習得論、学習論等）について深い知識を持っている。
- 科学知を授業という実践の場において適切に活用しつつ効果的な授業を行う力、および発展的な自己改善能力、省察能力を身につけている。

（イ） 高等学校教諭一種免許（ドイツ語）

ドイツ学科では、免許法施行規則に定める科目区分に基づき、「ドイツ語学」、「ドイツ文学」、「ドイツ語コミュニケーション」、「異文化理解」の四つの領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。

「ドイツ語学」では、必修科目として「ドイツ語学研究」を、選択科目として「中級講読Ａ」「中級講読Ｂ」「文献講読（ドイツ語圏の文化）」「文献講読（ドイツ語圏の社会）」を配置する。

「ドイツ文学」では、必修科目として「ドイツ文学史」を、選択科目として「ドイツ文学研究」「ドイツ語演劇研究」を配置する。

「ドイツ語コミュニケーション」では、必修科目として「初級ドイツ語Ⅰ」「初級ドイツ語Ⅱ」「中級ドイツ語Ⅰ」「中級ドイツ語Ⅱ」を、選択科目として「上級ドイツ語会話Ⅰ」「上級ドイツ語会話Ⅱ」「上級ドイツ語作文Ⅰ」「上級ドイツ語作文Ⅱ」を配置する。

「異文化理解」では、必修科目として「ドイツ語圏異文化コミュニケーション論」を、選択科目として「ドイツ研究の基礎（言語・文化）」を配置する。

また、教科指導法科目として、「ドイツ語科指導法Ａ」「同Ｂ」「同Ｃ」「同Ｄ」を配置する 。高等学校では２科目４単位以上を選択必修とする。この科目では、ドイツ語教育に関する知識・技能を学ぶとともに、ICTの活用技術、及びアクティブラーニングの視点から授業改善できる実践的な指導力を身に付ける。その到達目標は以下の通りである。

- 科学知と経験知、理論と実践の両方を見据えつつ、独力でドイツ語授業を立案・実施・反省できる自律的な能力を身につけている。
- 外国語教育の実践者として必要な関連諸科学（言語習得論、学習論等）について深い知識を持っている。
- 科学知を授業という実践の場において適切に活用しつつ効果的な授業を行う力、および発展的な自己改善能力、省察能力を身につけている。